

# 福岡市の今後の観光振興について

平成30年10月24日

- 1 宿泊税の用途に関する主な意見**
  - (1) 第1回委員会が出された主な意見
  - (2) これまでの検討経過における主な意見
  - (3) アンケートにおける主な意見
  
- 2 福岡市のこれまでの主な取り組み**
  
- 3 今後5年間の観光・MICEの動向について**
  
- 4 宿泊税を財源とする取り組みの考え方**
  - (1) 観光施策の例示についての考え方
  - (2) 事業例における事業費や総額について
  
- 5 今後必要となる観光振興策と事業規模**
  - (1) 九州のゲートウェイ都市として必要な取り組み
  - (2) 大型MICEに対応するための取り組み
  - (3) 観光産業や市民生活に着目した取り組み
  
- 6 用途に関するまとめ**

## (1)第1回委員会で出された主な意見

### ○広域観光の機能強化

- ・ Wi-Fi環境の拡充
- ・ 全ての人々が訪れやすいアクセシブルツーリズム
- ・ 各種案内多言語化
- ・ 九州全体のためのプロモーション
- ・ 九州のショールーム的機能, アンテナ基地
- ・ デジタルマーケティング (観光実態の可視化, 継続実施が必要)
- ・ ユニークベニユーの開発
- ・ ストレスレス, AIやIOT実証
- ・ 決済システム (キャッシュレス化)
- ・ 受け入れ環境としての景観整備
- ・ 災害時の外国人観光客対策

### ○MICEの振興

- ・ MICEの競争力強化
- ・ MICE体制強化支援
- ・ 人材育成

### ○都市の魅力向上

- ・ ナイトエンターテイメント (夜の楽しみの強化支援)
- ・ ナイトタイムエコノミー
- ・ 「食」の魅力アップ

### ○民泊関係・その他

- ・ 住んでいる人にも快適なまちづくり
- ・ ホームステイ型民泊 (暮らすように旅する)
- ・ ホテル改修等の補助

## (2) これまでの検討経過における主な意見（福岡市観光振興条例案補足資料より）

福岡市観光振興条例の制定に当たり、平成30年3月から8月までの間、宿泊事業者との意見交換を4回、有識者との意見交換を2回実施している（有志議員による勉強会開催：15回）。

### ○広域観光の機能強化

- ・ 観光案内機能の充実
- ・ Wi-Fiの充実
- ・ 外国人旅行者対応（多言語対応、トイレ洋式化、急患対応等）

### ○MICEの振興

- ・ MICEの受入環境の整備
- ・ 誘致体制の強化 等

### ○都市の魅力向上

- ・ 食、歴史、文化、自然等を活かした魅力づくり
- ・ ナイトタイムの魅力向上

### ○民泊関係・その他

- ・ 健全な民泊推進のための取組（違法民泊への対策）
- ・ 宿泊事業者に対する支援

## (3) アンケートにおける主な意見（資料1参照）

### ○広域観光の機能強化

- ・ ウォーターフロント整備
- ・ クルーズ整備
- ・ 福岡市を世界へPRするための予算

### ○MICEの振興

- ・ MICEの誘致
- ・ スポーツMICEの振興

### ○民泊関係・その他

- ・ 違法民泊への対策
- ・ 宿泊税を導入した場合のシステム改修経費

### 福岡市が行っている広域的な機能の整備・運営（主なもの）

福岡市はこれまで、より多くの観光客を呼び込み、九州全体の活性化につなげるため、様々な整備を行ってきた。

#### ①海の玄関口 受入環境の整備

クルーズ船の受入環境整備 <small>（クルーズセンター整備や岸壁の改良など、整備費 約50億円）</small>	市費	国費	県費
	約40億円	約10億円	0円
クルーズセンター運営や クルーズ船の観光バス対応など	市費	国費	県費
	毎年約3億円	0円	0円

#### ②陸の玄関口 受入環境の整備

博多駅リニューアルに併せた駅ビルとバスターミナル を結ぶ歩行者連絡橋などの周辺環境整備 <small>（博多駅再整備事業 総事業費 約67億円）</small>	市費	国費等	県費
	約23億円	約44億円	0円

#### ③九州各地の情報発信

博多駅と天神の観光案内所の整備・運営	市費	国費等	県費
	運営に 毎年約3千万円	0円	0円
九州情報コーナーを含む 市役所1階ロビーの整備・運営	案内所の整備を含めると これまで 総額 約6億円	約1.5億円	0円
	市費	国費等	県費
これまで 総額 約1.4億円	約0.5億円	0円	

## 福岡市が行っている広域的な機能の整備・運営（主なもの）

## ④ M I C E の推進

マリンメッセの整備	市費	国費	県費
	約297億円	0円	0円
福岡国際会議場の整備	市費	国費	県費
	約100億円	0円	0円
第2期展示場及び立体駐車場の整備・維持	市費	国費	県費
	約95億円	0円	0円

## ⑤ 福岡市内の交通対策

福岡タワー周辺における観光バス駐車場の確保	市費	国費	県費
	約4千万円	0円	0円
天神地区や福岡タワー周辺の駐車場の交通整理員の配置	市費	国費	県費
	毎年 約3千万円	0円	0円

## ⑥ 来街者の利便性向上

無料の公衆無線LAN環境の整備・運営等	市費	国費等	県費
	これまで 約1.4億円以上	約0.1億円	0円

#### 今後5年間の動向予定※

国における訪日外国人の増加目標（2020年までに4,000万人、その後6,000万人）の中で、福岡市や九州において、今後5年間で、大規模MICEや施設の開業等が予定されており、九州へ多くの人を訪れることが見込まれることから、九州の玄関口としての福岡市の役割が益々高まると考えられる。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年以降
大規模MICE	世界フィギュアスケート国別対抗戦 (4月) 第103回日本陸上競技選手権大会 (6月) G20福岡財務大臣・中央銀行総裁会議 (6月) ラグビーワールドカップ (9～10月)	東京オリンピック・パラリンピック事前合宿 (スウェーデン) (ノルウェー) (7月)	世界水泳選手権 (7～8月) 第54回日本薬剤師会学術大会 (9月)	大規模学会 (約7千人) 大規模大会 (約1万人)	大規模学会 (約2万人)
福岡市内のゲートウェイ機能強化の動き	福岡空港民間委託開始 (4月)	天神ビッグバン (～2024年)			
九州の動き	ラグビーワールドカップ (9～10月:大分, 熊本) 女子ハンドボール世界選手権【熊本】 (11～12月) 熊本城ホール会館開館 (12月)	かごしま国体 (10月)	長崎市交流拠点施設開館 (11月)	九州新幹線開業 (西九州ルート)	佐賀国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会

※あくまでも現時点の予定であり、議会審議等が必要な案件を含む

**(1) 観光施策の例示についての考え方**

今後必要となる観光施策について、以下①～③の視点から整理した。

なお、ここに記載する事業はあくまでも例示であり、記載事業を福岡市が実施すべきとの趣旨ではない。

**① 福岡市観光振興条例で定める施策に充当すること**

目的税である宿泊税については、福岡市においては、福岡市観光振興条例に基づく施策に要する費用に充てることとなっていることから、福岡市観光振興条例に定める目的、基本理念、施策に沿った事業に充当する。

福岡市観光振興条例で定める施策
①観光産業の振興
②受入環境の整備
③観光資源の魅力の増進等
④M I C Eの振興
⑤持続可能な観光の振興

## ② 九州における福岡市の役割や今後の観光・MICEの動向等を踏まえ、重要性や優先度の高い事業を選択

福岡市観光振興条例に定める施策の事業内容については、市議会での検討や審議、第1回調査検討委員会の意見、宿泊事業者等関係者の意見、これまでの福岡市の取り組み等に基づき、下記の観点から、重要性や優先度が高い事業を選択し、例示した。

- i) 福岡市の役割として、これまで取り組んできた「九州の玄関口としての拠点整備」の実績や重要性
- ii) 福岡市や九州において、今後5年間、大規模MICEの開催等が予定されており、福岡市や九州にとって大きな機会であるとともに、その受入環境整備等は喫緊の課題であること
- iii) 観光客の増加やMICEの誘致・開催が進めば、関連する観光産業や市民生活への影響を考慮することが必須

絞り込みの観点
①九州のゲートウェイ都市機能強化に向けた取り組み
②大型MICE等集客拡大に対応するための取り組み
③観光産業や市民生活へ着目した取り組み

## ③ 宿泊税を充当する事業は既存事業へ単純に充当しないこと

宿泊税については、今後の行政需要の増加に対し、安定的な財源を確保する観点から導入されたことを鑑み、これまで取り組んできた既存事業へ単純に充当するのではなく、下記の事業へ充当すべきである。

- i) 新規事業
- ii) 既存事業の拡充
- iii) 上記 i ii の効果的な継続事業
- iv) その他予見することが難しく、緊急性かつ必要性が認められる事業

## (2) 事業例における事業費や総額について

個別事業費や総額については、今後、必要な行政需要があることを示すために試算したものである。よって、宿泊税を財源とした具体的な事業については、今後決定される課税要件と税収見込みに応じて、事業実施年度の予算編成時に検討していくこととなる。

## (1)九州のゲートウェイ都市機能強化に向けた取り組み(観光客, MICE・ビジネス客, 市民・市内事業者向け) 1,721百万円

条例における施策項目	事業例	概要	平年の事業費 (百万円)
MICEの振興	MICE施設の充実 (拡充)	MICE施設の利便性・快適性の向上や機能強化	700
MICEの振興	MICE誘致の強化 (拡充)	質の高いMICE誘致, 推進体制の強化	170
観光資源の魅力の増進等	観光拠点の形成 (新規)	エリア観光の回遊拠点の形成	200
受入環境の整備	観光バス駐車場, 乗降場の整備 (拡充)	九州各地へのアクセス強化 のための整備	92
受入環境の整備	Fukuoka City Wi-Fi の利便性向上 (拡充)	高速化とスポット拡充	424
受入環境の整備	観光案内所の充実 (拡充)	既存施設の機能強化や 新規設置	100
受入環境の整備	九州周遊ルート形成のための デジタルマーケティング (新規)	ビッグデータ等を活用した 動向調査・分析	25
観光資源の魅力の増進等	フライ&クルーズの推進 (新規)	前泊, 後泊を伴う博多港を 発着するクルーズの推進	10

## (2)大型MICE等の集客拡大に対応するための取り組み(観光客, MICE・ビジネス客向け, 市民・事業者向け) 1,237百万円

条例における施策項目	事業例	概要	平年の事業費 (百万円)
MICEの振興	大規模MICE受入準備 (拡充)	キャッシュレスの推進など 地域の受入体制の強化	100
MICEの振興	ユニークベニューの開発 (拡充)	水辺や歴史文化施設を活用 したユニークベニュー開発	50
受入環境の整備	来訪者にもやさしい環境づくり (新規)	MICE施設や観光施設での ユニバーサル対応	247
観光資源の魅力の増進等	MICE開催おもてなし事業 (拡充)	ミストによる暑さ対策や 花を用いた歓迎	119
受入環境の整備	観光案内サイン等充実強化 (拡充)	デジタルサイネージの設置 やIoTを活用した案内強化	340
受入環境の整備	観光地等の公衆トイレの整備 (新規)	トイレの洋式化や バリアフリー対応	114
受入環境の整備	災害時の外国人観光客対応 (新規)	災害発生時に必要な情報を 入手できる環境整備等	11
観光資源の魅力の増進等	都市の魅力的なコンテンツづくり (拡充)	夜の魅力づくり, エンタメ の魅力向上等	256

## (3)観光産業や市民生活へ着目した取り組み（市民・市内事業者向け） 544百万円

条例における施策項目	事業例	概要	平年の事業費 (百万円)
観光産業の振興	宿泊施設のおもてなし 環境づくり支援 (新規)	宿泊施設におけるトイレの 洋式化や案内表示の多言語 化の補助	50
観光産業の振興	宿泊施設の経営強化・ 魅力発信支援 (新規)	経営強化のためのセミナー 実施やPRの支援	43
観光産業の振興	特別徴収義務者への事務費支援 (新規)	特別徴収義務者への支援	70
観光産業の振興	観光事業者のインバウンド 対応促進 (新規)	多言語対応支援や ビジネスマッチング	40
持続可能な観光振興	マナー啓発事業 (拡充)	映像やパンフレットによる マナー啓発	54
持続可能な観光振興	民泊を含む宿泊施設等の指導強化 (拡充)	環境衛生監視員の増員	147
	宿泊税導入に係る経費	徴税費用等	140
5 (1)~(3) 事業費合計			<b>3,502</b>

### 行政需要及び使途の考え方

- ① 目的税である宿泊税については、福岡市観光振興条例に基づく施策に要する費用に充てる。
- ② 条例に基づく事業内容については、九州のゲートウェイ都市機能強化等の観点から、重要性や優先度が高い事業を選択した。
- ③ 宿泊税については、①新規事業、②既存事業の拡充、③左記①②事業の継続、④その他予見することが難しく、緊急性かつ必要性が認められる事業、に充てる。
- ④ 今後の観光施策には、宿泊税を財源とする必要な行政需要がある。